

迫り・回り舞台

舞台中央に設置された直径 7.3 メートルの丸い演壇が回転舞台（廻り舞台）です。舞台は床の中央部分から切り取られ、底に舞台を回すためのからくりが仕掛けられています。回転舞台は 360 度回転可能で、もともとは歌舞伎の劇場のために開発されました。場面の切り替えや、その他にも様々な効果のために使われます。近代的な劇場では舞台を電動で回転させるが、金丸座では未だに人力で動かされています。

回転舞台の下には奈落と呼ばれる、土間に置かれた 4 本の心棒と 36 の石の足場からなる空間があります。心棒を押しながら、足場から足場へと移動することで中央舞台を回します。頭上の舞台とその骨組みとの間には木製のころ（ころ軸受け）があります。舞台の回転を助けるために 26 組みあり、それぞれころが 3 つずつ入っています。2010 年には、木製のころが日本機械学会によって機械遺産認定されました。

回転舞台の中には切り抜き昇降機や落とし戸（セリ）（0.9m×1.9m）があります。昇降機として機能する長方形の足場があり、これが下の奈落到り降りたり、舞台まで上ったりします。セリの使用によって劇にドラマチックな緊張感を与えることができます。これも人力で動きます。